

いま、生まれ変わる水前寺公園

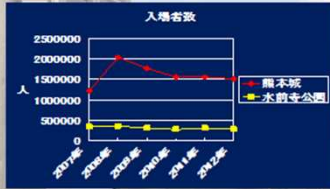
チームマシュマロ

◎成松 一寿 松村 優子
恒松 征吾 下田 祐輝



1 問題・課題

- 1 入場者数の減少
- 2 公園をとりまく環境の変化
- 3 連携の問題



2 根拠と検証

(1) 今までの経緯

- 古くからの歴史的な重み
- 関係者間の争いの過去

(2) 現状確認と検証

- 観光資産としての価値 (もったいない...)
- そのままにされたデッドスペース
- なぜ、減少したのか

3 提言目的

- 市民にとっての『憩い』と『誇り』のスポットとして、日々利用される水前寺公園を創造する
- 熊本の文化・芸能と熊本の地下水を代表する自然との融合の場である水前寺公園およびその周辺を、『継承し』『守る』ために。
- 水前寺公園周辺の関係機関や個人がつながり、互いの発想を活かし水前寺の魅力を見がいていく立役者になる。

4 提言内容

(1) 輝きと誇りをとりもどす

- 神社・行政・地域が一体となり活性化を目指す
- 市民が参加し、思い入れのある公園に
- 新たなアイデアによる新たな開拓

4 提言内容

(2) さらなる「飛躍」と「夢」

- 歴史資料館等の移設による教育文化の中心としての位置づけ
- 人にやさしいアプローチ施設の整備による憩いの場としての確立
- 江津湖を含めた一体的な自然環境を体験できる観光の推進
- みんなが待ち望む「花火」の復活

5 考察

(1) 今回の提案で期待される効果

- 水前寺公園と地域住民の一体化
- 住民の参画・協働の実現
- 公園内外の店舗の活性化
- 観光客の増加

(2) 将来的に期待される効果

- 経済効果
- 歴史文化資料館 (仮称) の建設
- 歴史散策プロムナードの新設
- 屋形船の進水

5 考察

(3) 実現可能性

- 水前寺公園等と地域住民が一体となった活性化は実現可能。
- 共通パス券等の発行やイベントの開催については既存を利用し、変化を与えることで実現可能。
- 夜間開園等については、安全面等をクリアすれば実現可能。

5 考察

(4) 課題

- 費用 (予算)
- 法 (文化庁の許可等)
- 権利 (既得権等)
- 景観
- アクセス